令和元年度　障害当事者部会の活動について

◆実施状況

第1回（令和元年6月11日）

各委員自己紹介、部会長及び副部会長の互選、令和元年度障害当事者部会の下命事項及び年間計画、平成30年度障害当事者部会の活動報告、今年度の残り3回の運営について意見交換

◆部会長及び副部会長の互選

互選により小西委員が部会長に決定。部会長の指名により、福田委員が副部会長に決定した。

◆内容

令和元年度障害当事者部会の下命事項及び年間計画

・令和元年度から地域生活支援専門部会が増え、親会の下に5つの部会を運営していく形となる。

・障害当事者部会の下命事項としては、「障害当事者からの情報発信等についての検討等を行うことであり、検討した内容について、区民へ向けた障害理解を深める啓発活動を行うこと」となっている。

・5つの部会と親会について共有し、新設今年度の当事者部会スケジュールを確認した。

平成30年度障害当事者部会の活動報告

広報誌vol.3を用いて、これまでの活動内容と、増えた広報誌配布先について共有した。区内特別支援学級や都内自立支援協議会、横浜市、堺市などへ新たに配布している。

今年度の残り3回の運営について意見交換

・文京区全体において障害者の自立を考えた時に当事者部会の役割は非常に大きい。当事者部会はルールや法律の縛りはなく、自由である。自由ではあるが障害のある方の自立や生活に結びつくような活動をどう発信していくかが求められているのではないのだろうか。発信先や内容、方法などを検討していけるとよいのではないだろうか。

・大学の授業に当事者委員が参加して、心のバリアフリーハンドブックを利用し、障害について理解を深めるために学生に発信していくといった取り組みはどうだろうか。

・小学校～大学で障害についての説明を行ってきたが、街中で声を掛けられる機会が増えたと実感しており、影響力は大きいように感じている。

・日常での困りごとを集めて、発信していくとよいのではないだろうか。

・障害者が感じている問題の解決は、全ての人にとっての快適に繋がると思う。だからこそ、当事者部会がスピード感を持って発信していくことが大切になってくるのではないだろうか。

・例えば、車道に対する歩道の段差は標準値が定められている。車いすの方は段差がなければ利用しやすくなる一方で、視覚障害者は段差がないと歩道と車道の区別がつかなくなり危険が生じることもある。障害によって段差のあり方が違うため、問題に感じていてもなかなか発信することが難しいという現状もある。障害種別によって物事に対するあり方や不便さに違いがあるという気づきを、人々に伝えていけるとよいのではないだろうか。

・(事務局より)今回の意見も含め、次回第2回部会にて今年度の部会でどんなことに取り組んでいくか、検討していきたい。

◆実施状況

第2回（令和元年9月3日）

今年度当事者部会の活動内容について、心のバリアフリーハンドブックの校正内容の検討、その他

◆内容

今年度当事者部会の活動内容について

・次回第3回で、民生委員との交流会を行う提案があった。当事者部会が一体何をするべき場所なのか、発信というのが一つのキーワードだったが、区民の障害理解が足りていないということだったと思う。発信する対象を考え、地域の中で身近な相談役として活動している民生委員との交流をしてみようということになった。

・民生委員が近所のどこにいるのかも分からない。仕事内容も分からない。

・民生委員が当事者部会に入ってもよいと思う。

※その他、委員にやりたいことの意見を求めるも特に意見が出なかったため、第3回で民生委員との交流会を実現させる方向で合意に至る。

心のバリアフリーハンドブックの校正内容の検討

・イラストやイメージ図がわかりにくい、障害者虐待防止法の概要説明、虐待防止センター等の情報を追記した方が良い、全体的にヘルプマークをもっとイラスト内に入れた方がよい等の意見があがった。

・視覚障害のことで、“正面から”「どうしました？」～という表現は不適切ではないか。歩いている時に正面から声をかけられると衝突してしまう恐れがある。“正面から”という表現ではなく、“すぐそばで”、“そばに寄っていって”という表現の方が適切だろう。

その他

○文京総合福祉センターの祭りの参加について

・文京総合福祉センターの祭りの参加について確認あり。個人レベルではなく当事者部会で参加することになり、委員が参加して広報誌を配布することになった。

○広報誌発行について

・今年度版も発行することとする。全体の構成は前年度同様とし、事務局で下案を作り委員に確認してもらう。また、委員からも寄稿してもらう。文京総合福祉センター祭りの様子や民生委員との交流の様子を載せることとする。

○東京都障害者自立支援協議会について

・参加者名簿を見る限り当事者の参加は少なかったように感じた。参加者は行政職員、社会福祉協議会職員等が多かった。また、当事者部会がない自治体も多く、意外であった。

・当事者の参加が増えるともっと盛り上がるのではないかと感じた。

・盲ろうの当事者が発言の中で、当事者部会で“困っていることは何ですか？”とよく質問を受けるが、「その質問が一番困ってしまう」と話していた。以前、同様の意見が文京区の当事者部会委員からもあがっていた。

・当事者部会の運営についてはお手本があるわけではない。文京区の当事者部会も何かを創り出していく視点や発信方法、組織としての自立について考えていくことが大切だろう。